

2019年パルプ技術協会定時総会 理事長挨拶

日本製紙株式会社
代表取締役副社長
山崎 和文



第72回紙パルプ技術協会定時総会の開催にあたりご挨拶させていただきます。現在、我が国の紙パルプ産業の置かれた状態は、情報の電子化が急速に進み、新聞用紙や印刷情報用紙など情報の媒体としての紙は減少の一途をたどっています。新聞用紙については減少幅が加速度的に増加しているのが実感です。一方、E コマースの伸長に伴い段ボール原紙は堅調な伸びが期待できそうです。家庭紙も急激な伸びは期待できませんが、インバウンドの増加や生活様式の変化に伴い堅調に推移しています。

このような背景で、印刷情報用紙のマシンを各社が停機することによって需給バランスを取り、価格修正が浸透しつつある状況です。段ボール原紙については、米中の貿易関税戦争による中国からの日本古紙買い付け量の増大に伴う古紙原料高を背景に、価格の見直しが浸透しました。家庭紙も原料高と物流費の高騰を受けて価格が修正されている最中です。印刷情報用紙マシンを伸びが期待できる段ボール原紙マシンへ改造する計画が発表され、家庭紙では新マシンが増設されています。いわば、IT化、生活様式の変化の中で紙の持つ役割が情報の媒体からパッケージやサニタリーに変化していると言っても良いでしょう。

一方、世界中で地球環境を守る活動が急速に高まり、投資の面でもESG投資が大きな影響力を持ち、多くのステークホルダーからSDGsを基盤とした企業活動が要求され、地球環境を守る企業活動でなければ生き残れない状況です。この動きの中で、プラスチックからバイオマスへのシフトが叫ばれるようになってきました。これは紙パルプ業界にとっては事業活動そのものが地球環境に貢献でき、企業価値を向上できるチャンスでもあります。プラスチックは素晴らしい性能を持ち、しかも低価格です。すべてをバイオマスに置き換えることはできませんが、バイオマスでできることはバイオマスでやるように技術開発を進めていく必要があります。

紙パルプ技術協会はプラスチックから紙へのバイオマス時代が到来することを見越して、再生可能な植林によるバイオマス資源の供給、木からパルプを大量で安価に取り出す技術、セルロースを様々な形に加工する技術などをさらに磨き、時代をリードしていく存在になりたいと思っています。それには多くの商社とサプライヤーの皆様と協力していく必要があります、紙パルプ業界が再び強くなれるように牽引してまいりたいと存じます。

次は、セルロースナノファイバーに代表される新素材です。6月3日から幕張メッセで開催されたTAPPI NANO 2019の盛況ぶりを見てもわかるように、セルロースナノファイバーに世界中が関心を持っています。開発から実用段階に入りつつあると言っても良いでしょう。再生可能で多くの優れた特性を持つこの新素材の実用化に向けて、年次大会や紙パルプ研究発表会などで最新技術の紹介に努めたいと思います。成長が期待されている家庭紙については、紙パルプ技術協会に新たに家庭紙技術委員会を設置していくことを考え、この分野の技術発展に努めています。

紙パルプ産業が成長していくためには優れた人材の確保が不可欠です。地球環境にやさしい産業であること、バイオマスの時代が到来したこと、セルロースナノファイバーに代表される新素材の開発を進めていることを様々な機会に発信し、若い人たちにとって魅力ある紙パルプ産業を目指して今後も活動していきたいと考えています。以上で私の挨拶といたします。 以上